

経営学部

令和7年度 帰国生入学試験

1. 実施状況

(1) 志願者数、合格者数等

学科	志願者数	受験者数	合格者数
経営	3	1	1
商	2	2	2
会計	0	0	0
キャリア・マネジメント	0	0	0
合計	5	3	3

(2) 本入学試験の目的

本学では、多様な入学試験制度を導入し、受験生に対して幅広く受験の機会を提供しています。そのうちの「帰国生入学試験」は、保護者の海外勤務などで外国に住み、現地の教育制度に基づいた学校や、国際バカロレアのカリキュラムを持つ国際学校で学んだ人を対象にした特別な入試制度です。海外での学びや経験を持つ多様な学生を受け入れることで、本学部をより活発で魅力的なものにすることを目的としています。

2. 試験内容・出題の意図

(1) 書類審査

出願期間に先立ち、事前審査期間において入学志願調書ならびに出願要件・資格を満たしていることを確認できる資料の提出を求めました。これらを審査のうえ、出願資格を有すると認められた者のみが、本入試への出願を行うことができます。なお、入学志願調書においては、本学部への入学意欲や将来のキャリアの展望・目標について、自己の考えが十分に述べられているかを確認しました。

(2) 小論文

副業・兼業を希望する労働者が増えている状況を踏まえ、そのメリットおよび留意点について60分間で論述するよう求めました。今回のテーマである副業・兼業は、経営者および労働者の双方にとって重要な時事問題であるためテーマとして採用しました。

(3) 口頭試問

小論文に加えて、約10分間の口頭試問を行いました。口頭試問では、2名の面接担当教員が1名の受験生に対して、事前に提出された入学志願調書などにより、本学部への入学意欲やアドミッション・ポリシーに叶う者かどうかを確認しています。

3. 評価のポイント

(1) 小論文

小論文は、経営学に隣接する時事問題に関心を持ち、その問題を理解しているかを試すもので、論文の記述に必要とされる論理的な思考力が求められました。まず、経営者視点および労働者視点で副業・兼業のメリットおよび留意点を客観的に展開できるかを求め、自身の賛否を論理立てて説得力をもって提示することができているかどうか、それを論文の内容と関連づけることができているかどうかを確認しました。次に、入学後の学業に必要とされる日本語能力のレベルを確認しました。最後に、記述内容の納得性・主張の一貫性を確認しました。

(2) 口頭試問

口頭試問での評価の主なポイントは以下のとおりでした。

- ・自分の言葉でしっかり説明できているかどうか。
- ・なぜ本学部を目指そうとしたのか、それが自身の学習とどのように関連するのかどうか。
- ・入学後、何をどのように学びたいのか、学業の目標を示すことができているかどうか。
- ・自身のキャリアプランを明確に持っているかどうか。
- ・自身の強みをしっかりアピールできるかどうか。

4. 解答状況

(1) 小論文

多くの受験者は日本語能力および時事問題に関する理解力は合格点に達していました。一方、時事問題に対する論理展開・納得性・一貫性は評価に差が生じました。なお、記述試験では判読できない極端なくせ字や不正確な漢字は減点対象となります。また字数不足や字数オーバーも減点対象になりますので注意して下さい。

5. 次年度の受験生へのアドバイス

令和8年度入試から「帰国生入試」は、出願資格を緩和し総合型選抜に統合することになっていますが、選考方法には大きな変更はありません。

小論文については、専門知識を問うような出題は見込んでいませんが、文章を読んで、自分なりに要約する力、そしてそれを踏まえて、自分の意見をしっかりとアウトプットできる力を養っていただきたいと考えています。この力は、入学後も必ず必要になるものですので、トレーニングを積んでいただくことを期待します。

口頭試問については、覚えた内容を棒読みするのはなく、自分の言葉で、なぜ近畿大学で経営学部なのか、将来の目標のためにどう進んでいきたいのか、これらを自分の中で組み立てて、そこから派生するであろう質問を想像しながら準備していただくことが良いだろうと思います。